

平成30年度第1回総合教育会議 摘録			
開会年月日	平成30年10月22日(月曜日) 午後 3時30分		
閉会年月日	平成30年10月22日(月曜日) 午後 4時50分		
開会場所	尾島庁舎 4階 大会議室		
協議事項			備考
(1) 今後の太田の教育について — 教職員の働き方・不登校・学力向上 — (2) その他			
出席者	構成員	【市長】 清水 聖義	
		【教育委員会】 澁澤 啓史(教育長) 金田 克次(教育長職務代理者) 高木 潔(委員) 中島 利香(委員)	
出席者	事務局	【市長部局】 企画部長、企画部副部長、企画政策課長	書記・記録
		【教育部】 教育部長、副部長、市立太田高校担当副部長、教育総務課長、学校施設管理課長、学校施設管理課主幹、青少年課長、文化財課長、文化財課主幹、歴史施設課長、学校教育課長、学校教育課指導係長、学校教育課指導主幹、教育総務課総務係長	
傍聴者	【一般】 11名 【報道機関】 3社		

教育総務課
担当職員1名

I 開会

II 市長あいさつ（要旨）

- 過去の総合教育会議では、30人程度学級、給食室の環境整備、不登校児童生徒対策、義務教育学校設立について協議し、教育の進展を図ってきた。
- 本市は地方交付税が少なく、税収が景気に左右されやすいことから、限られた予算内で考える必要がある。
- 教育委員会と協議を重ね、子どもたちが賢く、たくましく、心が健全に育つように環境づくりをしていきたい。

III 教育長あいさつ（要旨）

- 過去の会議では限定されたテーマで協議をしてきた。
- 今日は「今後の太田の教育」という大きなテーマの中、幾つか取り上げながら忌憚のない意見交換をしていきたい。

IV 協議事項

（1）今後の太田の教育について — 教職員の働き方・不登校・学力向上 —

— 教職員の働き方（部活動・中体連・クラブ活動） —

〈中島委員〉

- 市長は、芸術学校、スポーツアカデミーなど新しいシステムを立ち上げ、大変素晴らしい成果を上げられている。子どもを持つ親として、色々な経験ができ、本当にありがたい。
- 新たに温めているアイデアがあれば教えていただきたい。

〈市長〉

- 特別にない。
- 平成12年度に開校したスポーツアカデミー（※設立当初は「スポーツ学校」）は、色々な競技のスポーツを取り入れている。教員の残業抑制や土日出勤を減らすことにも役立っている。しかし、（スポーツアカデミーを含む）クラブ等に所属の子どもたちは、学校対抗で行う中体連（部活動）には出られない。
- 芸術学校も600～700人の児童生徒が在籍し、成果を上げている。
- 外部（学校以外でのスポーツ、芸術）を色々と充実させていくことが、子どもたちの成長に繋がると考えている。
- 学校で一番重要なのは、心・精神・道徳心・社会性を持つことを学ぶこと。

〈中島委員〉

- スポーツアカデミーは、学校の先生じゃない方が指導をしている。学校でも、ポ

ランティアや（市民の）余力を使って、協力できるシステムが将来的にできれば良い。

〈教育長〉

○教員の負担が大きい現状、何か工夫がないか、皆さんのご意見を伺いたい。

〈市長〉

○スポーツアカデミーを作った基は、専門性がない先生が部活の担任・顧問をしているから。顧問は試合のときに行けば、残業時間も減るし、その他でできることはその他でやらせるような環境を作ってあげるべき。

〈高木委員〉

○部活動は中学校の目的であったが、時代が変わり、市長の言うとおりのクラブチームが強く、社会でも評価されている。多方面から指導者も沢山おり、理想的だ。
○効果が上がれば、受け入れ態勢をきちっとしてもらえれば大変ありがたい。

〈教育長〉

○中学校の先生で一番大きな負担になっているのは部活動であり、これは紛れもない事実。
○働き方改革においても、部活動を制限する動きが出ているが、子どもの中には、（制限することによって）満足できない子もいる。
○スポーツアカデミーとの連携が上手くできれば、学校では不十分でも、子どもの満足度は上がっていく。何かいい方法がないか、話し合っていく必要がある。

〈金田委員〉

○部活動は必須なのか。
○クラブを利用する手も、色々と目的によって、使い方が変わるのでは。

〈教育長〉

○基本的には部活動は強制ではなく、学校の任意。しかし、子どもの成長に関して大きな関わりがあるということは確か。
○適切な指導者がおらず、空回りしている現実があるのは間違いない。

〈市長〉

○適切な指導者がいる学校もあり、強くなりたい向上心のある子は、その学校に行きたがる。
○親が責任を持って登下校の面倒を見れば、今の部活動も充実してくる。

〈中島委員〉

○特定の学校だけレベルが高くなるのも問題なので、スポーツアカデミーで取り込めないか。

〈教育長〉

- 力の強い子が集まると、(元々地域にいた)弱い子は弾かれ、やる気を失くしてフラフラしてしまう。学校にとっては非常に大きな問題となる。
- 優れた指導者でも、必ず人事異動があるので、異動先の学校まで追いかける訳にもいかない問題点もある。

〈市長〉

- スポーツ分野のシステムは、学校に負担をかけているが、勉強は学校に負担をかけない塾がある。
- 今後、どこか(教育関連の会議等)で中体連の在り方について取り上げてほしい。

〈教育長〉

- スポーツアカデミーと中学校が協力し合いながら、また、十分な保障はできないが、外部コーチを入れながら、子どもたちのレベルアップに貢献してもらおう。

－ 教職員の働き方(残業時間が多い) －

〈市長〉

- (先生の)残業が多い。誰が管理をしているのか。
- 書き物など一切やらない。仕事を減らせばいい。
- 一定の目標を作り、その中で一定の満足度と子どもたちの満足度を整えてもらえれば一番いい。

〈金田委員〉

- 厳しく指導すればやる気を削いでしまい、回って生徒に影響が出る。
- 改善するには、組織的なやり方をしないと難しい。
- 子どもと接触する時間が長くなり、残業時間が増えるのであれば、ある程度容認できる。
- 超過勤務で体調を崩している教員はいるか。今議論になっているところは健康の問題であり、成果が出ればストレスも溜まらない。兼ね合いが難しい。

〈中島委員〉

- 早く帰るだけでは、結局持ち帰りになってしまい、見えない部分となるだけ。質的なものを改善すべき。
- 市民(ボランティア)がお手伝いできる仕組みがあればよい。

〈高木委員〉

- 夏休みのお盆期間は、学校完全閉校を実施した。
- 今年度から部活動方針を定め、休養日を設定したのは大きな改革である。

〈教育長〉

- 残業は所属長がパソコン上で管理をしているが、残業をやってはいけないという指示は一切していない。数字上では小学校はかなり減少、中学校では少し改善されてきた。
- 民間は残業手当が付くから無限にやるということではない。
- 国が教員を増やすべき。
- 子どもとマンツーマンで対話するときは誰でもよいという訳にはいかない。
- ストレスとなる超過勤務でも、やりがいなど教員の心に残るものがあり、それが大きな救いとなっている。
- 今まで長い教員文化があり、時間はかかるが少しずつ改善していく。

－ 教職員の働き方（施設） －

〈高木委員〉

- 合併以来学校の耐震化を推進し、更に一般教室にエアコンを導入し、大変良い環境になった。特別教室の理科室にも、ぜひ導入をお願いしたい。
- 理科の実験は薬品や火を使うので、理科室でしかできない難点がある。

〈市長〉

- 極端に暑い夏は実験を避けるなど、授業時間の組み方等で工夫してほしい。
- 我慢することも訓練。何でもわがままでやるのは良くない。

〈教育長〉

- 理科の授業は週3回。現実的に夏季に実験しない調整も難しいこともあるので（学校現場の）要望が強いことは、頭の片隅に置いていただきたい。

－ 不登校 －

〈金田委員〉

- 不登校専門員のおかげでいい成果が出ている。もう少し増やしたい。
- 学校に戻らないまでも、家から出してあげる等、次のレベルに上げることが教育委員会に必要な仕事である。

〈市長〉

- 今いる（専門員の）人数で、工夫しながら対応してほしい。また、悩みごと相談

- 員も上手に使ってほしい。できれば教員出身ではない方がいい。
- 現状の人材で、更に先生の努力も重ね、少しずつ良くなっていく。
 - 少子化で先生1人が対応する面積が増え、環境が良くなっているが、不登校児童生徒は増え続けている。限界があるという気がする。

〈教育長〉

- 不登校専門員は、元悩みごと相談員の方で有能な人材を配置している。
- 対応には多少時間がかかり、その予算が足りない。人材を見つけるのも大変。

－ A L T －

〈市長〉

- 教室に入ったら英語が次から次へと流れてくる、英会話をひたすら聴く学習があるが、そんな雰囲気、教室内に作ってほしい。アシスタント（A L T）を入れることよりも、まずは環境作りをしてほしい。
- 理想はアシスタント（A L T）無しで英語の授業を行うことだ。
- 学校内に英語ができる（日本人の）先生はどのくらいいるのか。
- これだけ英語と言われている時代だから、自腹で英会話教室に通うというような自己努力をしてほしい。

〈教育長〉

- 小学校で英語ができる先生は少ない。若い先生の中には、英語の教科担当ではないが、ややできるという先生は結構いる。その先生を中心に授業を行っている。
- 日々の生活で、英語を話さなければならないという環境が、日本にはないのも英語が伸びない要因。

〈金田委員〉

- インセンティブを与えられるとよい。短期留学なども効果がある。

〈市長〉

- 英会話教室に通うための補助金、またはA L Tにお願いし、10人程度に分散して英会話の勉強会をするための予算なら、検討の余地はある。

－ 学力向上 －

〈市長〉

- （東大進学で有名な）開成高校の理事長と以前話をした際、学力が伸びるのは「塾」だと言っていた。学校の先生に責任を擦り付けるのは良くない。
- お金を持っている（家庭の）方が、教育が上がる傾向がある。全部ではないが、

大きな影響がある。

○（学力向上に対しては、教員は）気楽に構えていた方がよい。

〈金田委員〉

○太田市の子どもたちは、毎年、小学校の時よりも中学校の時の方が伸びている。
心配することはない

〈教育長〉

○市長があれやこれやと言わないので助かっている。でも、しっかりと対策をとって成果は出している。

－ まとめ（締め） －

〈教育長〉

○今までにない総合教育会議になった。色々と叱られ、また、参考になることもあった。教育委員会としても可能な限り工夫していきたい。

V 閉会